

## 8-4-6 業務研究発表会WG

### 1. WG 設置主旨

本WGは、建設コンサルタントの継続教育の一環として、平成13年度より開催される「建設コンサルタント 業務研究発表会」を円滑に開催するため、令和元年度より設置された。業務研究発表会は、「業務における優れた成果や自主研究開発成果の発表を通じて、互いの技術の研鑽を図ること」を目的としており、それを具現化するための検討・準備を実施するWGであり、今回で20回目の開催となった。

### 2. 主な活動の記録

毎年9月の業務研究発表会開催に向けて、インフラストラクチャー研究会と共同して、主に以下の活動を実施した。

#### (1) ワーキングの開催（計4回の開催）

今期はコロナ状況により、メール審議開催やWeb/会場開催（会場参加人数の削減）で協議を行った。

##### a) 第1回 運営会議（6月1日）

今年度開催にあたり、改善事項・プログラム等を確認し、実施要項をメール審議した。

##### b) 発表論文 一次審査会（6月19日）

応募総数102件より、新規性・市場性・論理性という観点で審査を実施し、4分野で各8編、合計32編を選定した。（査読期間：6月3日から6月15日、審査結果発表：6月26日）

##### c) 業務研究発表会 反省会（11月5日）

開催結果を報告、各種データを集計・分析・考察して概要を共有し、次年度に向けて課題抽出と改善策を協議した。

#### (2) 業務研究発表会の開催

コロナウィルス感染防止の観点より、毎年のホテル グランドアーク半蔵門での開催を取り止め、二次審査はビデオ審査とした。発表者には事前に業務研究発表をビデオ録画頂き、それを審査員（清水英範委員長ほか12名の審査員）が個別に採点し、令和2年9月15日に建設コン

サルタンツ協会本部会議室にて、二次審査（審査員はオンラインならびにリアル参加のハイブリッド会議にて）を実施した。

その結果、「河川・水防災」、「交通・道路・橋梁」、「都市・マネジメント」、「新技術・新領域」の4分野32編より、最優秀賞1名、優秀賞3名、特別賞4名が選考された。その後、10月21日に改めて、建設コンサルタンツ協会本部会議室にて表彰式を開催した。協会関係者は会場にて、受賞者はオンラインで参加した。

今回は残念ながら、基調講演、発表会終了後の海外視察報告会ならびに懇親会は中止となった。また、協会機関紙「Consultant」に昨年同様、開催結果を掲載した。

### 3. 次年度の活動について

21年目となる業務研究発表会であるが、コロナ禍の影響は収束しておらず、次年度も通常開催は断念せざるを得ず、オンライン開催を予定している。昨年の経験を活かし、オンタイムでの開催により、発表ならびに質疑応答に関しても可能とし、発表者のプレゼン能力を明確に審査出来るよう準備を進める。またアフターコロナの新しい生活様式にも着目し、これまでの知見を活かした業務研究発表会の改革を検討する。

コンサルティング・エンジニアの技術の研鑽という目的をより充実させ、昨今の働き方改革にも呼応した、誰もが参加できる機会としての業務研究発表会を目標とする。活動計画は次のとおりである。

- ・第1回 運営会議（2月17日）前年度に前倒しで開催し、令和3年度開催方針について協議した。
- ・発表論文 一次審査会（6月11日）
- ・令和3年度 業務研究発表会（9月14日）10:00 開始 ～ 17:00 終了（オンライン開催）
- ・業務研究発表会 反省会（10月初旬）

（業務研究発表会WG WG長 藤井 久矢）